

SCHOOL DATA

〒289-1603 山武郡芝山町大里2631
 TEL 0479-78-0016 FAX 0479-78-1113
 ■児童数/74人 ■教職員数/13人 ■周辺環境/水田 畑 山林 (平成21年5月1日現在)



【ホタル小屋付近の整備】



【児童による小川部分拡張】

ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/75㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/2001年
- 直近の改修年/2009年
- 主な管理者/教職員・児童・ビオトープ整備実行委員

【生息している動物】

メダカ、ドジョウ、イモリ、ヤゴ、タニシ、カワナナ、カエル

【生育している植物】

ヨモギ、セイヨウタンポポ、ススキ、アジサイ、ショウブ、セリ、コナラ、エノキ、モミジ、マユミ、コブシ、ヤマボウシ、マテバシイ

【今後生息・生育させたい生物】

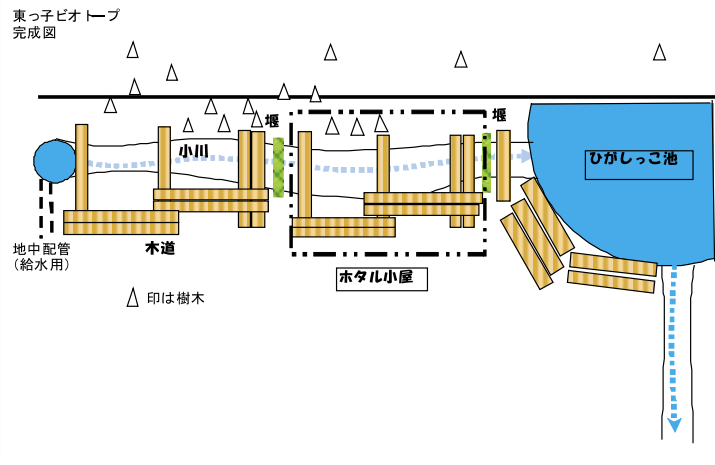
昔から芝山地区に生息するヘイケボタル、メダカ、カワナナ等。特にヘイケボタルについては、現在、水槽で幼虫を飼育しているが、自然繁殖できる環境を作りたい。池の周囲にはコナラやエノキを植樹する予定である。



【コンセプト】

本校周辺には水田やいわゆる里山がまだ数多く存在し、自然環境に恵まれた地域である。しかし、このような自然の中に入って児童が遊んでいるかというところとはいえない。身近な自然観察の場である「東っ子池」を整備・改修することによって、21世紀を担う子どもたちに環境保全の重要性や動植物の生命の大切さについて学ばせたい。具体的な活動としては、芝山地区に生息しているホタルを中心とした水棲生物や植物を農業のかからない校庭で自然に近い形で飼育栽培する。

手入れが行き届かず、池の水量も減り、環境が悪化してきた「東っ子池」と活用されていない「ホタル用のビニルハウス」を整備・改修することにより、児童が安全により近くで生物とふれあい、さらに興味を持って観察できるようにしていきたい。また、地域の方々が気軽に楽しく集い合える場としたい。



【児童によるビオトープへの草の植え付け】



【ゴムシートの設置作業】

ビオトープの活用方法

- ・生活科、理科、総合的な学習等の時間で観察
- ・地域を対象とした観察会の開催
- ・近隣の学校のビオトープ見学や意見交換等の交流会の開催

ビオトープの効果

■児童への効果

昔から生息する生物とその生息環境を学ぶことにより、地域の自然についての理解を深め、環境保全についての意識を高める。環境や生命の大切さを理解し、優しい心を持つことができる。また、他校との交流や地域の方々とふれあうことでコミュニケーション能力が身につく、よりよい人間関係を育む。

■教職員への効果

生活科、理科、総合的な学習の時間の教材として、効果的に活用する事ができる。

■保護者・地域住民への効果

地域を対象とした観察会を機に、気軽に来校していただき、地域の方々と児童・教職員との交流を深め、開かれた学校をめざす。

保護者、地域との連携

■保護者

年3回程度の清掃、草刈等の管理面について協力を要請している。

■地域

地域の「ホタルの会」のアドバイスを得て、ホタルが自然に繁殖できる環境整備に努めている。



【保護者、児童による整備作業】

整備・活用・管理等の課題

今回の改修・整備では、重機での作業等は保護者・地域の方の協力を得て、限られた予算を有効に活用することができた。本校は、小規模校のため、児童・教職員だけでは今後の維持管理が難しい。定期的な清掃・草取りだけでなく、数年に一度は浚渫等の作業が必要になると思われる。今後の整備・管理にも、保護者や地域との連携を密にして行っていく必要がある。また、ハウスを活用してオオムラサキの羽化にも取り組みたい。

今後の展望

ホタルが自然繁殖できるように、専門家や地域の「ホタルの会」の方々にアドバイスをいただき整備していきたい。現在6年生が校舎内で飼育しているホタルの幼虫を放し、自然に繁殖する様子が観察できるようになることを期待する。

整備担当者(教員、児童、保護者等)から

今までの「東っ子池」は、自然にしみ出していた水が減少し、夏場には小さな池になってしまっていた。それでも、池の中にはメダカやヤゴなどの生き物はたくましく生息していた。今回、新たに水源を確保したことで、水質がよくなり、小川部分の増設もでき、ホタルの飼育に適した環境となった。ホタルの幼虫を放流し、その成功を期待するとともに、今後の維持管理には、雨水の活用や太陽光発電の利用など、環境に配慮した形での運営についても検討してみたい。



【改修が終わった東っ子池ビオトープ】